

171  
69  
10

近藤氏藏書			
一〇	二八	傳記	和書門
冊	號	函	類

文恭先生遺事 二

往復書案  
 館僚名簿  
 史館襟錄  
 史林年表  
 羣書一覽  
 文恭先生遺書  
 立原先生口語



一去年十月十日...  
 若水...  
 肉多...  
 下...  
 多...  
 向...  
 化...  
 以...  
 逸...





茂・小竹と曰世上法以爲うはけの白く染めおぼしむる

法八

元文四年  
十月了り

法三  
法二

一 五箇一法乃分年かにおきてお方とせり

一 是

一 舞乃初者祀初乃略おぞくもたへり

一 酒茶菓お備祀とる夜おお初とる年法早もを祥とる

斗とみしとねんし

一 五節句句回仲と祀と上香茶湯斗とる夜おお初とる

是と

一 節句月並上香茶湯おお初とる是と

一 初詣とち乃年中刻とおぞくし

一 祝文と説教乃無とる

ちとあつとせ乃分法とてりうたあ初と節と上りか

十了り

あつと

おとほり

一 文若碑陰と又とてり彫とてりおとろし

碑面ほりておとりのとてりてまたとてりて碑陰も

とてりてりつ彫りしとてりて彫りてり入し

とてりてりてりてりてりてりてりてりてり

うらやみ

元禄八年

ありとあり

みよとも

三人

一安楽者座より養ふ業を序ノ形に移しめり潤筆能  
 功人結ふに流るるをいひしむるや及ん何ゆか  
 りとせむすの徳者にとりて西将がすむすに将の路表  
 して中しむるまことさしむる疑もすしき首  
 卷にたるをいひあやう将徴をいひ中をいひあすうら  
 懸い人ちうんもよろしい流を好む能くしむる  
 有しは又又座よりして一将をいひ絶筆もゆるり

一に振らしは 竹もいりるや ありては

様りをいりていりて別打をいりてはいりていりて  
 まるる振に五巻に女懸い人し流をいりてはいりて  
 みよともいりてはいりていりていりていりていりて  
 者座福をいりてはいりていりていりていりていりて  
 之許にいりていりていりていりていりていりて

元禄九年

十三年

今らふ振

今らふ振

今らふ振

新八  
角束



古体おぼへたるは、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一 徴君我邦... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

一 碑面は自筆... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

一 年月... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。

此を既ちりて... 年号... 梅里... 一字一闕。





元禄九年

予のしるし

今もいふ

今もいふ

元禄九年

一 元禄九年の初冬に徳田河津藩寺某が徳田に宿中

何七が故年訪し新中初夜に彼はあやむく目付

戸をひらき目付を視押し者もくは此藩の御下敷

よりしるし

元禄十年

写ししるし

多々

行

源中

一 元禄十年に徳田藩に宿中しるし

よりしるし 但しけあまう名こしくらわと黒毛ラマ

可然と ありては長中し名等善い高細く

細地にお湯瓶と一語きくらとありて是れより上りし

像三枚はを流しし

元禄八年

十月

向ふ

新

今もいふ

一 元禄九年孔子ノ牌位出而後先あると上り色

列ノ奥村を改因幡石持と名付し腹戸新文にお

は元禄九年おき及ノ傍に平岩仙桂としりぬ京

元禄九年おき及ノ傍に平岩仙桂としりぬ京

し、此牌先年帝水、んせし、二帝ありし、孔廟  
之牌、代ら、り、か寸尺、さ、十哲ノ牌、が、い、  
大形、明、朝、も、何、方、ノ、郷、学、校、ノ、牌、と、て、さ、ら、ん、た、は、言、ひ、  
ら、ん、又、あ、ら、う、し、さ、ら、な、お、昌、平、ノ、十、哲、ノ、牌、也、事、  
其、レ、此、牌、も、尺、寸、合、せ、入、し、又、り、う、方、分、違、ひ、し、た、ら、し、

元禄五年

井上春相殿

今、  
元禄五年

折、  
ハ

一、又、若、久、集、序、先、年、首、卷、を、以、て、撰、は、り、て、書、由、題、跋、  
之、神、之、を、り、若、久、稿、斗、と、し、て、後、世、の、か、し、を、序、文、と、し、  
改、し、り、若、久、稿、斗、と、し、り、改、言、書、を、あ、し、た、并、あ、ら、う、

若、久、稿、斗、を、以、て、撰、は、り、て、書、由、題、跋、  
之、神、之、を、り、若、久、稿、斗、と、し、り、改、言、書、を、あ、し、た、并、あ、ら、う、  
代、も、り、

一、先、年、此、方、々、新、奠、之、執、行、に、指、省、意、を、し、り、又、若、并、版、  
部、氏、之、に、以、て、復、考、中、に、お、ん、し、此、後、先、年、の、序、文、を、撰、  
り、若、久、稿、斗、と、し、り、改、言、書、を、あ、し、た、并、あ、ら、う、  
も、あ、ら、う、代、も、り、  
以、付、大、々、あ、ら、う、除、く、と、て、此、年、潤、多、し、り、名、入、し、り、留、上、  
之、紙、之、を、さ、ら、ん、た、は、此、後、先、年、首、卷、を、り、て、撰、  
假、し、り、若、久、稿、斗、と、し、り、改、言、書、を、あ、し、た、并、あ、ら、う、  
及、若、久、稿、斗、と、し、り、改、言、書、を、あ、し、た、并、あ、ら、う、



所した書写校勘。及「五浦」字画も亦りり  
指し省庵を以て。効る中集外集を以て。此方  
つ着し不女抄成し此外並編みしを「そら」補入  
「交」右「つ」字。以味成此外も「そら」不  
限多少  
の字字も「う」なり「そら」幸と機会。是「そら」を  
以「つ」六ヶ交傳り難く自「校」正多る。お  
戸を「そら」なり「う」し

一又素唱和詩文ありし。は此紙行なる言の「そら」此  
又素唱和を「そら」し。は此紙行なる言の「そら」此  
此紙行「付」出たは「そら」し。は此紙行なる言の「そら」此

漸又素唱和。人々友を以て他を以て。は此紙行なる言の「そら」此  
富「そら」此紙行なる言の「そら」此紙行なる言の「そら」此  
は「そら」此紙行なる言の「そら」此紙行なる言の「そら」此  
奇「そら」此紙行なる言の「そら」此紙行なる言の「そら」此  
「そら」此紙行なる言の「そら」此紙行なる言の「そら」此

元禄十六年  
あつりたり

そら

山崎玄碩書

一又素唱和。下「そら」此紙行なる言の「そら」此紙行なる言の「そら」此  
「そら」此紙行なる言の「そら」此紙行なる言の「そら」此  
「そら」此紙行なる言の「そら」此紙行なる言の「そら」此  
「そら」此紙行なる言の「そら」此紙行なる言の「そら」此

うかしそくふある後ちぞ

一 此の三幅の焼失し新々しえりるもその

しりしよきやうしちや神もあはれをいへる様

様更なほとんていへる

元禄十六年  
十一月廿七日

三ノ木  
長子

新の紙

海舟紙

一 此の山像三幅の焼失しその画即ち好色と云

試に画の半の事どもはなりの名焼捨し

り焼失し竹の光の三幅の像とあしとまじり

能くせしむ傍中よりよきし舟の像 三幅

の焼失し中船戸新々海沼の三人のとりまじり

り焼失しぬの焼失し太之人の半の事白恩と云

ひし月之夜海舟をいへるやまをいへる

載の焼失し舟の表むき焼捨し

も焼失し舟のしをいへる人との焼失し

しにせしむ焼失し舟のしをいへる人との焼失し

心也 痛くしむる心也

元禄十四年  
三月十九日

春の心

水戸  
の心

心也 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心  
心也 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心  
心也 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心  
心也 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心  
心也 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心  
心也 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心  
心也 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心  
心也 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心  
心也 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心  
心也 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心

孔子朱子とて 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心

明徴君と三字の字に 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心

孔子朱子墓とて 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心

孔子朱子墓とて 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心

孔子朱子墓とて 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心

孔子朱子墓とて 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心

孔子朱子墓とて 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心

孔子朱子墓とて 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心

孔子朱子墓とて 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心

孔子朱子墓とて 痛くしむる心也 元禄十四年三月十九日 春の心 水戸の心

紙の毛をすきしき平の毛をすきしきわらわの毛をすきしき

一瓜をぢれし、髪をすきしきぢれし、髪をすきしき

下袴をすきしきし、ちちちと短く申し、髪をすきしき

りし

元禄八年

ぬりし

ぬりし

今より

未文茶像古毛三幅

魚毛

り 新糸を幅

り

り 少糸を幅

り

り 新糸を幅

り

り 少糸を幅

り

ちち下し、うけねて、髪をすきしき、古毛をすきしき

きり、手もすきしき、髪をすきしき、新糸をすきしき

下下、顔色をすきしき、髪をすきしき、髪をすきしき

髪をすきしき、髪をすきしき、髪をすきしき、髪をすきしき

髪をすきしき、髪をすきしき、髪をすきしき、髪をすきしき

髪をすきしき、髪をすきしき、髪をすきしき、髪をすきしき

髪をすきしき、髪をすきしき、髪をすきしき、髪をすきしき



物りて其善乎しと云ふ事あるもよし

一 大なる色彩多し幅も亦さるる善なりと云ふ事あり今一幅あり

と云ふ事あり江守也肉色なり好む物なりしことなり

元禄八年  
九月二十日

今之る也

海老江

卯ハ  
角ノ末

一文恭保陰彫刻之由事也江守也交り作思死時

そとこはつらつら世ふま入りし又恭保命七才子  
只と角系斗しとあり とも君の代りて度々年々と檢閲

瀬尾林内

此の板は江守の代りて世に流布せられたる也

多下と感激ありと云ふ事ありお角系一と云ふ事あり

上之と感佩銘刻しと云ふ事ありお角系一と云ふ事あり

板は江守の代りて世に流布せられたる也

と云ふ事ありお角系一と云ふ事あり

吟味は瀬尾林内より世に流布せられたる也

多下と感激ありと云ふ事ありお角系一と云ふ事あり

多下と感激ありと云ふ事ありお角系一と云ふ事あり

元禄八年

七月廿七日

三人

海老江

元禄十六年十一月十一日  
 右館僚名簿  
 右館復書案

右館僚名簿

右館復書案

秋山八兵衛

名孟慶字久積為管庫寫字役印符十二名四人  
 月俸之給三年庚午六月二十日没

小野宗三郎

名采對座系子常水門人寫字役後出為進物手

今井小四郎

名弘濟字將興号魚舟新平子常水門人書院名  
 此乃石之治二年己巳正月十日没

安積覺之助

名覺字先民号澄泊齋又稱瑞石於亭為史院西齋  
 為小姓以常水門人

服部新介

名其哀賀少人常水門人寫字役印符金五名三人  
 月俸

右館僚名簿 原本

維

正德三年歲次癸巳閏五月丁未朔越十有八日甲

子權中納言從三位源朝臣綱條謹遣臣安積

覺告于

明故徵君文恭朱先生之靈曰曩者先君義公之祠  
堂于駒籠。屆時祭享不意癸未之冬忽罹回祿  
之災。守祠吏眼部其衰<sup>衰</sup>克任其職。奉  
神主於忽遽之際。俾無震驚。爾來嘗造浩繁。未遑重  
建。深惟江都殷盛之地。民戶輻湊。爰居之止。無  
時畢方之孽。難保迺相攸于水戶城西。新構祠  
宇。岡阜營迴。林木鬱蒼。拖江水而倚爽塏。揖峰  
巒而俯眈眈。雖乏輪奐之美。足企肅穆之風。爰  
遷

神主奠安于此。寔得其所。孰曰非宜。嗚呼

先生乘化而往。窅然不可見者。七尺之軀。伏

義而行。皜乎不可泯者。萬世之名。

先生之文。如長江之一瀉千里。

先生之節。如孤峯之特立。藹仞而其

德教之薰陶。士庶如雨露之涵濡。潤澤

操宇之卓越。今古如日星之粲爛。炳彪其有切於

民生。彝倫莫知其然而然也。覩物興懷。遇時展

敬。雖

音容之永隔。庶

精爽之不渝。

神其鑿諸來

歌來

享嗚呼尚

饗

安頓子克代

此六字御筆

朱舜水遺物也



右之錄十年丑七月也。安移角也。是也。

元祿十一年舜水先生墓祭儀節

元祿十一年二月二十六日 西山公祭明徵君朱

先生之墓前一日執事者講習儀節掃墓除道點祭

器設卓省牲黎明備三牲陳列菓饌庶品設庭燎祝

及諸執事就位序立 公晨出西山至瑞龍山總館

著道服戴燕尾進至墓道盥洗參神就位鞠躬拜興

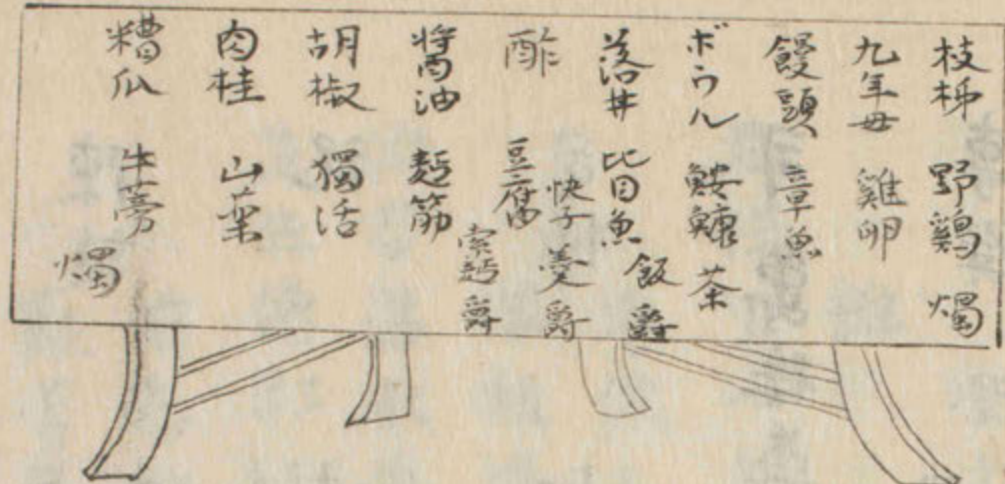
拜興平身二拜詣香案前跪上香降神司爵奉爵自左

右公取酌酒俯伏拜興拜興平身三拜奠饌司

傳饌以次奉飯羹索麪 公進至卓前行初獻酒司

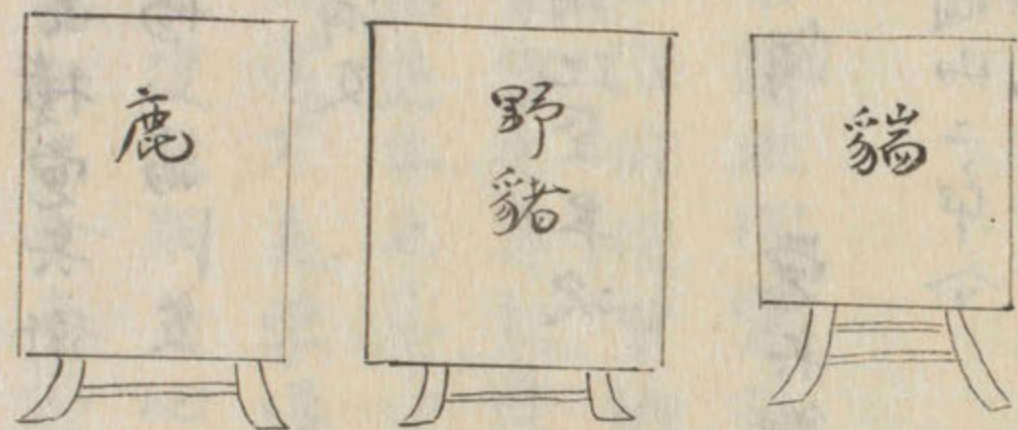
奠饌取之奠于卓上

# 墓



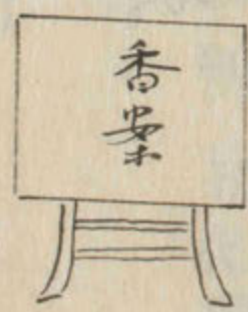
三層  
雞卵 雞鯽

性用全體但不去  
毛者皆白差前

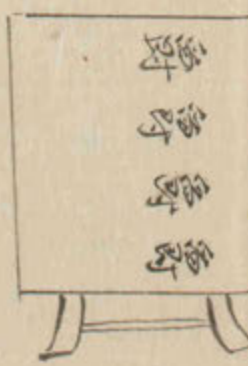
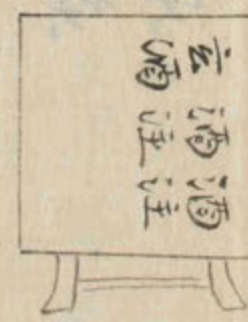
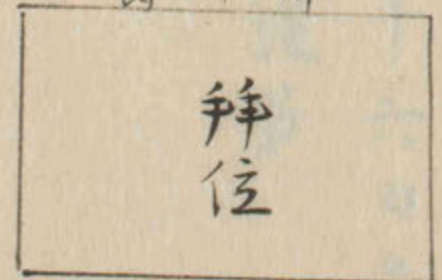


XXXXXXXXXX

XXXXXXXXXX



降神



位祝

## 陳設圖

司樽奉爵酒注進奠酒進饌  
 自左右如前  
 復位諸執事皆跪祝讀祭文  
 獻禮奠酒進饌  
 備食司樽奉酒注自奠茶復位一揖而出祝焚祭文  
 禮畢  
 傳饌傳敬饌一種奠饌  
 取之奉公親奠之  
 公又進至卓前行亞  
 行終獻禮奠酒進饌  
 禮畢

執事

陳設

安積覺兵衛  
楊清友  
道服  
布衣

祝

清友

司樽

朝比奈半次

布衣

司爵接奠饌  
覺兵衛

傳饌

岡山二郎介  
鹿野文八

青襖  
青襖

祭文

維

元祿十一年歲次戊寅二月丙午朔越二十六日辛

未從三位前權中納言源朝臣光國謹言

潔牲粢盛之奠致祭于明

徵君萍水朱先生之墓曰嗚呼

先生德邵行潔才美學優遭時屯蹇微辟不就慟哭

有志恢復無期矢心金石勵操冰霜流落海外

艱苦萬狀保全衣冠始終一節幸稅駕於是邦

得設醴于吾土胡斯文之不淑遽興亡之歎

鄉閭遠隔一萬餘里

音容永違十有七年欽慕

精爽瞻戀

提誨碧石樹碑勒文紀德冠日明

徵君度成宿昔之志稱曰

子朱子式彰景仰之誠時維仲春節屆清明灑掃塋

域祇薦歲事尚

饗

墓祭禮畢遂祭后土布席墓左設板其上陳設庶品

奠饌奠飯

公就位俯伏降神

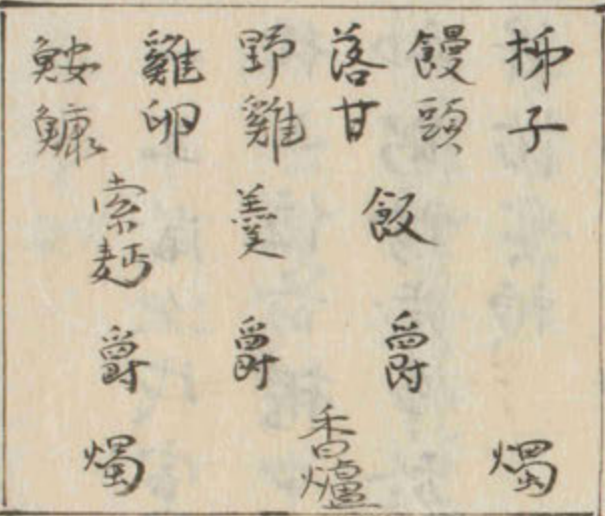
無參神儀司樽司爵奉爵酒注進自左右

如前上香酹酒俯伏拜興拜興拜興平身拜三行初獻禮

如前祝就公左讀祝文行亞獻禮終獻禮並如前但無進饌備

茶奠一揖而出祝焚祝文禮畢

陳設圖



執事同上

祝文

繼

元祿十一年歲次戊寅二月丙午朔越二十六日辛未從三位前權中納言源朝臣光國敢昭告于土地之神躬修歲事於明徵君舜水朱先生之墓惟時保佑實賴

神休敢以酒饌敬伸奠獻尚

饗

右史彼禰禱

萬治二年己亥

舜水先生

今年長崎ニ至ル先是或ハ至リ或ハ去ル今年ヨリ後遂ニトニル故ニコニ出ス年五十九

萬治三年庚子

舜水

寬文元年辛丑

舜水

中原陽九迷畧ヲ撰シテ安東省庵ニ與フ

寬文二年壬寅

舜水

寬文三年癸卯

舜水



寛文四年甲辰

舜水

今年 義公宅生煩ヲ長崎ニ遣シテ先生ヲ訪フ

寛文五年乙巳

舜水

聘ニ應シテ七月江戸ニ至ル九月水戸ニ至リ十二月江戸ニ歸ル寛文帳云銀百枚廿人月俸

安積覺兵衛

初彦

九月舜水水戸ニ至覺父貞吉ノ願ニ依テ舜水ノ門人トナリ從テ江戸ニ至ル時ニ年十歳

今井小四郎

初弘

弘濟

系作將興今年父死シテ扶持ヲ賜フ舜水ニ從テテ学フ十四歳

寛文六年丙午

舜水

是年與陳遵之書及諸件書

安積覺

今年父死水戸ニ歸リ父死ノ下寄令トナシ又江戸ニ至リ舜水ニ從フ

寛文七年丁未

舜水

八月又水戸ニ至リ漏鐘ノ銘ヲ作ル 老牛ノ自實薄ノ跋ニ先人不起矣間一歳先生又來水戸トアリハ舜水ノ來ル八年ナリ此年ニ來ルトアルハ誤カラス

寛文八年戊午

舜水

水戸ニ至ル

安積覺

舜水ニ從テ江戸ニ至ル舜水功課自實薄ヲ作リテ戒勵セシム三月十下ヨリ九月十五日ニテヤ

寛文九年己酉

舜水

年七十 義公先生ノ壽ヲナス今年諸侯五箇國説ヲ作ル

寛文十年庚戌

舜水

今年学宮圖説ヲ作ル

寛文十一年辛亥

舜水

寛文十二年壬子

舜水

儒生ヲ率ヒテ教奠ノ礼ヲ習ハシム史攸事跡明年ノイトス今文集ニ從フ

延宝元年癸丑

舜水

再ニ儒生教奠ノ礼ヲ習フ史攸事跡明年ノ事トス今文集ニ從フ

延宝二年甲寅

舜水

冬史攸ヲ河原書院ニ移ス

延宝三年乙卯

舜水

十二月廿五日史攸ヲ馬場東ニ移ス

延宝四年丙辰

舜水

延宝五年丁巳

雇七八人日次記ヲ寫ス

舜水

以合カ銀百枚外六尺四人分銀廿枚ト定十月ヨリ定ミリタム今年八月ヨリノ分十枚下カ

延宝六年戊午

舜水

孫毓仁長崎ニ來ル

延宝七年己未

舜水

義公八十ノ壽ヲナシタマフ

今井弘濟

四月長崎ニ至テ朱毓仁ニ見ユ七月歸ル

延宝八年庚申

舜水

咳血ヲ患テ牀ニアリ

天和元年辛酉

六

舜水

天和二年壬戌

舜水

四月十七日死々八十三

貞享二年乙丑十二月廿日舜水ノ孫朱天生長崎ニ来リ兼テ今井中

シタノニ文恭先生ヲ祭ル此日祭事ヲ修ス 義公駒込山莊文恭ノ祠堂ニ至リ

タニヒラシ見タラ御服切上下辰中刻以出即刻歸邸

服部新介某

元治二年己巳舜水附屬二月物書駒込祠堂守ヲ兼ヌ  
後祠堂燒失付テ考治

右史林年表

國姓爺尺牘 一帖

國姓爺コクセイヤ鄭成功水戸の舜水先生母贈るところの尺牘なり草

書十五行百九十餘字其書又云一別萬里常望東天眷意不

休云森不肖荷光武重興之義不得舍于寢食之間雖然

力微勢疲無太狼喫今欲遠憑日本諸國侯假多少兵恭望

台下代森乞之諸國侯便是與台下曾謀之慶也

台下今微採薇客而莫忘國恩懇々云々

右上

舜水同盟朱公文人 床下

愚弟鄭森稔首

按ずるに國姓父節しんの此名ハ森字ハ大本と云々隆武召  
て朱姓と何しんの時成功と何しん今舊友の朱舜水又賜  
書翰ありと以て舊名よりして森とつけられたる姓名の  
より成功と云ふ朱字の印を押す舜水先生ハ明の監國魯王の  
勅諭ありしを併せ考ふべし右下元高の漫筆又其勅諭ハ  
のせく云ふ舜水寐覺て求め延佇して以て族茲又殊スミヤカニハ尚勅  
爾しん即言旋前東て予ハ恢復乃事業しん佐くべし當又爾  
ガ節義文章ハ資くべし幸又免るるを安しんと云々他邦又濡  
滯することなるを欽め特ハ勅する舜水の奏疏云臣崇  
禛十七年又於しん恩と蒙る特ハ微しん二次就ずすれり

江西の按察司副使ハ授らば兵部職方清吏司郎中と兼  
鎮臣方固安軍ハ監す復拜せり云々芝山會稿ハ舜水ハ  
稱しんと云々濬工とすもの傳聞の謠なり○又云け村本朝明  
曆三年なり朱子瑜字ハ魯璜舜水の人なり○又云ある人朱  
舜水明人故以る崇禎帝國ハ殉時ハ節又死せず○日本  
ハ逃るることハ議す云々此疏ハ其のときハすれり云々曾  
る補仕せり何しん此ハ其の傳聞の謠なり○又云け村本朝明  
何しんす云々○明季遺聞ハ曰福王崇禎十七年五月四日ハ以  
る監國となり十五日位即ハ明年乙酉弘光と改えす清の豫王  
既ハ江浙と定めり北京ハ歸り弘光ハ挾しん去る乙酉張青カイ

堂吳春枝黃道周鄭芝龍唐王代立く監国王とし隆武  
と改之す貝勒これ斬太祖の後なり帝位に福列に即す清江王

亦監国と稱す隆武これ斬閏六月十五日なり瞿式耜永明王代立ッ桂王の子

なり監国永略と改元す戊子十月十四日なり丙戌福建黃

相棟觀生何吾騶顧元鏡と十一月は於く隆武の弟唐王聿

鏘と擁之す監国年号紹武十二月十五日杜永和紹武并

周王益王遼王等代擄すて盡くこれ斬し西浙東亦魯

藩必奉ふて監国とすこれより定る清兵浙又入潞藩城を

以く降る張國維方逢年柯夏仰宋之普陳函輝熊汝

霖孫嘉績等とも魚目王と台ふ也之朱大典亦孫珪と

造ハして表を上り勸進す魯王紹興又監国より〇此尺牘の真  
跡兼葭亭主人江田世恭よりこれ代りて家塾に模刻すつとこ  
ろなり

鄭成功書 紅葉瓢来らし 長崎濱武氏藏高元泰所

藏二幅之其一〇小信と改して云鄭成功名ハ森字ハ大本父芝

菴龍字ハ也黃一官書く日本より来て婦と娶りて成功代生是火

光何の芝龍心より代りて呉とす成功日本より長し後七閩又之隆武

呂より陸見し代りて朱と賜ひる代りて成功と改してたむこれより

中外国姓書と総す

右より書一覽

文恭先生ノ孫毓仁長崎ニ来リテ先生ニ見シテ請フ然レニ国禁  
ニテ先生ノモトニ至リテ見ルヲ許サス此時

義公文恭先生日長崎ニ行キテ毓仁ニ逢給ヘトノタニハキ先生  
ノ答ニ祖トシテ孫ノ為ニ長崎ニ行キ逢フ本意ナラスト申上シト

ナリ東鑑先生話

文恭先生老年ニ及テ意テ

義公ハ願ハシハ我死ル時ハ厚ク葬ルニ及ス唯棺槨ヲ堅

固ニシテトリツサケルヲ請ハシト是ハ明朝恢復ノヲアラハ子孫ニ至リ

テ體骸骨ヲ移シテ故土ニ至ルヲモアラシト深遠ノ思召ナリト

此君也  
先生話

文恭先生遺書

五經集註 十五本

監国魯王敕書一箱

奏疏一卷

祭文一卷

先世縁録 一卷

履歷

紙牌一卷

享礼陳設一卷

叙奠筆記一卷

新序二本

管子四本

管子纂一本

武經孫子一本

武經標題正多一本

国策奇鈔二本

讀史快論 二本

古今源流八本

古文奇賞 二本

襍著一卷

小李將軍畫一箱

令牌一枚 共一套

開番閱防一枚

先生印文釋一枚

祠堂圖一枚

康熙丙辰科殿試狀元題名錄

周尺一本

牙笏圖一枚

應制詩式一枚

古文奇賞六本

名文珠璣七本

古文彙纂一本

必讀古文一本

古文品外錄二本

元文類十一本

編次諸家文集三本

陸宣公全集四本

湯明文鈔五本

先生印章五箇

安南供役紀事一本

舜水真書一帖

周易本義一本

詩經集註二本

禮記集說八本

禮記纂註四本

左傳綱目八本

公穀纂一本

春秋左胡選四本

西陽搜古奇編二本

太平廣記三本

續藏書一本

篇海八本

豹府十本

詩教輯要一本

唐詩選一本

訓蒙圖彙十四本

關異一本

草訣歌一本

五經奇英五本

四書人物考一本

小學孝經二本

大學衍義補一本欠本

家禮正衡一本

敬齋箴一本

孔子家語五本

說苑四本

同三本

新序一本

日本史略一本

音註倭語一本

安南行役紀事并節畧一本

突鸞一本

雞經一本

文恭親蹟目錄一本



